

清水港海洋文化拠点施設 基本計画  
第 2 回検討委員会 検討資料

2018年9月21日

## 基本計画検討項目（目次案）

### 第一章 海洋文化拠点が清水、海洋分野にもたらすものとは

- 1-1 「国際海洋文化都市・清水」と海洋文化拠点施設整備への期待
- 1-2 施設が創る4つの大きな効果
- 1-3 4つの効果を高めるための施設の役割

### 第二章 世界初のテーマを持つ施設が提供する、多様な価値

- 2-1 清水でしか実現できない「海洋・地球に関する総合ミュージアム」のテーマ

### 第三章 ミュージアム全体を活性化する活動にかかる計画

- 3-1 施設価値を高める活動理念
- 3-2 次世代型のミュージアム活動の基本的な考え方
- 3-3 基本的な考え方をもとにした魅力的かつ持続的な活動に向けて
- 3-4 様々なターゲットに対し施設が提供する価値

### 第四章 施設のコアとなる展示にかかる計画

- 4-1 「海洋・地球を総合的に理解する」ための展示の基本的な考え方
- 4-2 展示展開の基本方針
- 4-3 展示ストーリー
- 4-4 展示展開イメージ

### 第五章 海とのつながりをめざす施設にかかる計画

- 5-1 建設候補地と諸条件
- 5-2 「国際海洋文化都市・清水」を象徴する施設の基本的な考え方
- 5-3 展示を中心とした機能構成と諸室の必要面積
- 5-4 その他、魅力的な施設に向けた考え方

### 第六章 持続的な事業としていくための運営にかかる計画

- 6-1 清水港をフィールドにした施設の魅力的・持続的運営イメージ
- 6-2 ネットワーク・コラボレーションの展開イメージ
- 6-3 施設の質を高めるための事業づくりの考え方

第1回 8月8日

審議内容

第3回 10月

審議内容

(基本計画素案)

第2回 9月21日

審議内容

**海とのつながりをめざす施設にかかる計画**

# 建設候補地と諸条件

- ・清水港港湾計画や清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針などの全体計画との整合を図る。
- ・日の出地区における官民の様々な主体が行う事業を通じて、海洋に関連する様々な活動・機能呼び込むなど、地区全体での一体的な空間づくりをめざす。

## 日の出地区 開発イメージ



## (1) 周辺環境との調和・連携を生み出す

- ・日の出地区に現在備わっている、今後設置される予定である施設や機能との調和・連携を意識。
- ・日の出地区における回遊性を向上し、施設単体ではなく、地域全体での滞在時間を伸ばすような計画を検討。
- ・周辺施設との関係性がわかり、面でのつながりを生み出すような標識・サインなどの誘導案内についても導入を検討。

## (2) 清水ならではの景観を活かした特徴をつくる

- ・メインテーマである海洋を身近に感じられ、駿河湾への愛着を持っていただくための諸室配置や仕掛けを盛り込む。
- ・富士山や日本平など「地球」の壮大なスケールを感じるような景観を望むことができる場を設ける。
- ・クルーズ客船で清水港を訪れる方たちにとって訪れたいくなるようなアイキャッチになる。

## (3) 教育普及活動・常設展示を中心とした、ミュージアムとしての性格を考慮する

- ・施設の魅力に直結する「教育普及活動」「常設展示」と、その他機能とが有機的につながるように諸室を構成・配置。
- ・展示に係るバックヤードや設備など管理のための空間を十分に確保することで、施設のスムーズな活動を促す。
- ・無理なく長く使い続けられるだけでなく、将来的な活動の発展などに対応できる施設とする。

## (4) 利用者・運営者共に安全・快適に利用できる環境づくり

- ・ユニバーサルデザインに配慮し、高齢者や障がい者を含めたすべての利用者が安全で快適に利用できる施設をめざす。
- ・地震をはじめとする多様な災害に十分な耐性を備えることとする。
- ・観光客や学校などの団体利用時に必要な諸室やスペースの確保に配慮する。

## (5) 環境にやさしく維持管理が容易な施設づくり

- ・エネルギーを無駄に消費せず、環境への負荷が少ない施設デザインや設備を採用します。
- ・施設の建設においては、合理的・効率的な構造・仕様となるよう設計段階で十分検討するとともに、施設の維持管理を適切に行えるよう、長寿命化や修繕費を含むライフサイクルコストの軽減をめざします。
- ・施設の維持管理を計画的かつ容易にするために、可能な限りランニングコスト低減に配慮した計画とします。

# 施設設計に向けたポイント

## 1 施設の顔となる面への工夫

- ・日の出地区を回遊する来場者のメイン動線は市街地方面となることが想定されるため、市街地側へ向けた施設の顔づくりを重視する。
- ・施設の顔となる部分の演出や、来場者が溜まるスペースに配慮する。

## 2 日の出ふ頭・クルーズ船拠点との一体性

- ・東側の日の出岸壁からの動線が想定されるクルーズ船客の施設へのアクセスを容易にする工夫を検討する。
- ・防潮機能を兼ねた緑地整備も別途計画されているため、周辺計画との整合性を綿密に図る。

## 3 海へつながる施設デザイン

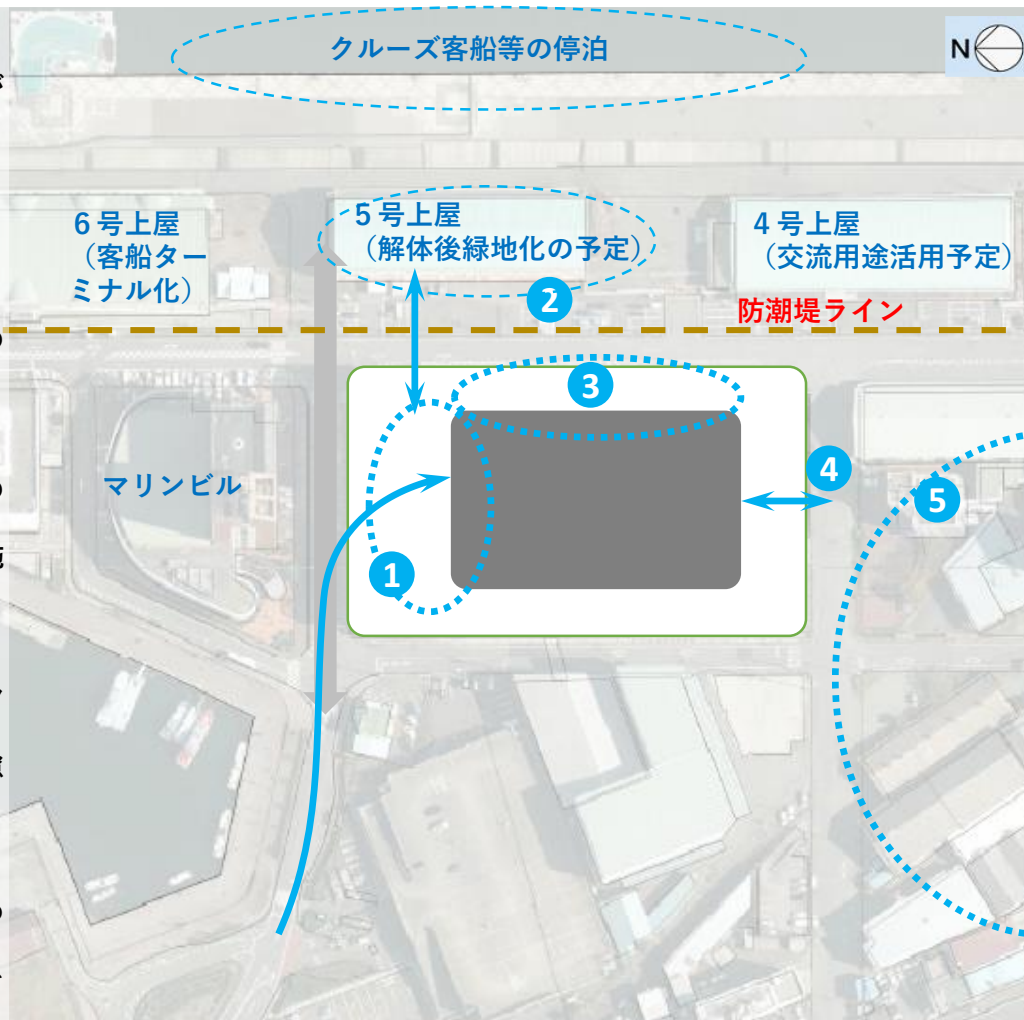
- ・海からの施設の見え方も意識し、目の前に広がる駿河湾等の環境との一体感を感じられる施設をめざす。
- ・さらには施設からも駿河湾や富士山を望むことが期待されるため、施設内にもビューポイントを設けるなどの工夫をする。

## 4 バックヤード動線の確保

- ・来場者の動線に配慮すると共に、運営面にも配慮し、適切なバックヤード動線や搬入口を確保する。
- ・大型の車両による搬入なども想定されるため、来場者への安全に配慮し、施設南側に主な動線を設けることが望ましいと考えられる。

## 5 日の出地区の周辺開発との調整

- ・日の出地区における本施設の周辺では、民間事業者による開発も含めさらなる面での展開が期待される。
- ・このような開発の動向も踏まえ、動線・サイン計画や施設デザインを検討することとする。



# 展示を中心とした機能構成と諸室の必要面積

展示機能を中心に周囲の環境にも配慮することで効果的な諸室配置をめざします。

## 交流機能 例) ロビー、カフェ、ショップなど

多様な利用者が自由に往来・交流することが可能であり諸室をつなぐ役割を持つ。時にはイベントやMICE対応など大空間を活用した展開も可能とする。

## 展示機能 例) 常設展示室、特別展示室、特別シアターなど

基本的には有料であるため、仕切られた配置計画が必要。さらに展示の効果を向上するために教育普及・研究連携機能に係る諸室とのつながりへの配慮が求められる。

## 教育普及機能 例) ライブラリー、ワークショップルームなど

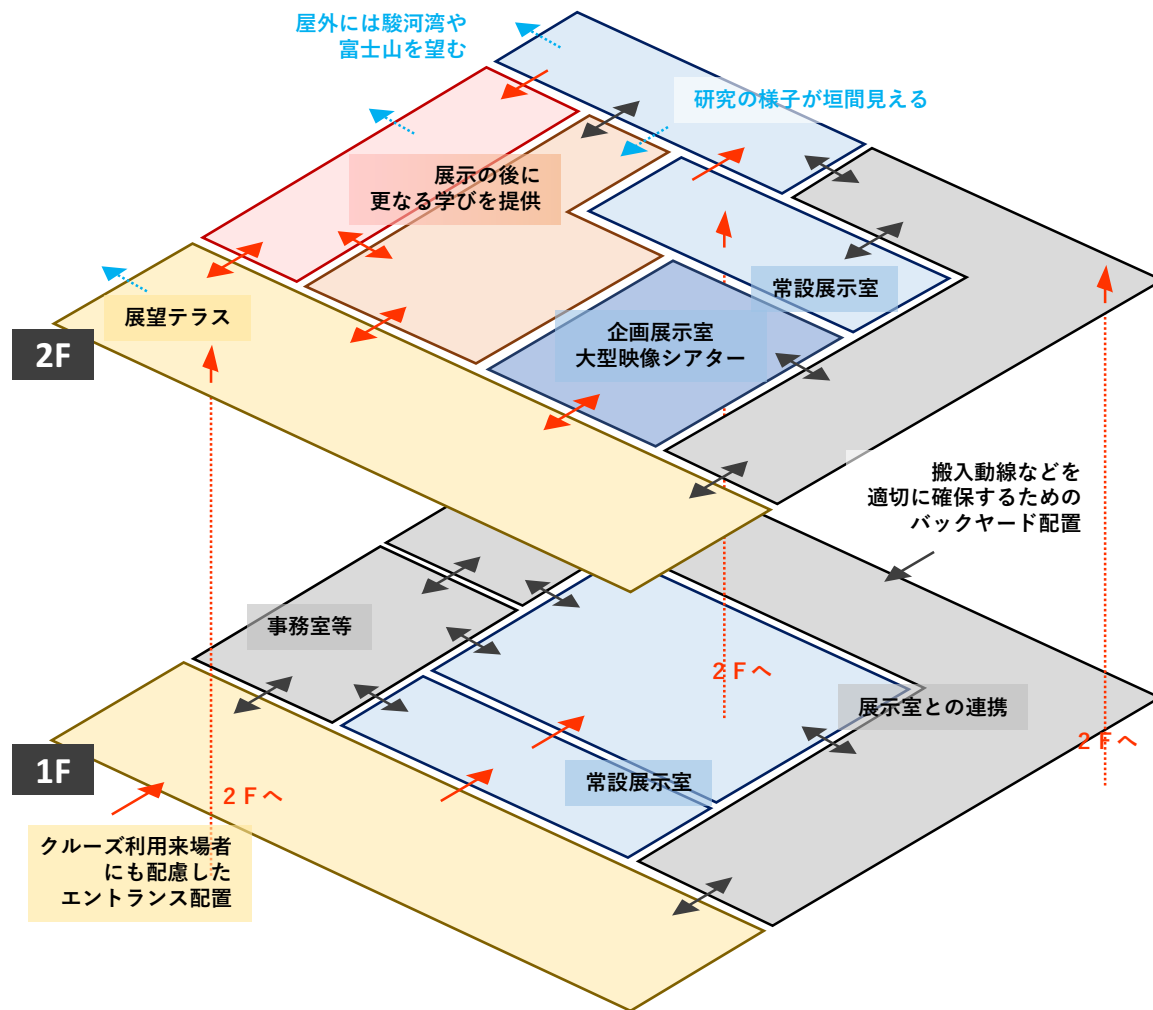
展示とは異なる面で利用者の自主的な活動を促進すると共に、施設での普及プログラムなどが開催可能な来場者に開かれた空間としての役割を持つ。

## 研究連携機能 例) 研究連携ラボ、プレゼンルームなど

研究者や連携先団体など専門家と施設職員の共創のための設備を備える。さらに来場者の方が研究連携の様子を見たり参加することのできるオープンな一面も有する。

## 事務管理機能 例) 事務室、関係者控室、バックヤードなど

さまざまな施設活動を支え管理するための諸設備や職員の事務設備を備える。関係諸室とのつながりに配慮した配置計画が求められる。



## 展示を中心とした機能構成と諸室の必要面積

諸室の機能概要を検討すると共に活動に必要な規模を算出していき、想定されている施設規模（10,000㎡）と調整を図ります。

室名	機能概要	面積
<b>交流エリア</b>		
エントランスロビー	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の玄関口、来訪者を迎え入れる空間として 開放的で親しみを持つことができる空間とする。</li> <li>さまざまな諸室をつなぐ空間となる。</li> <li>MICE対応などイベント時には大空間として活用できるような機能を有することとする。</li> </ul>	約1700㎡
ミュージアムショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミュージアムのオリジナルグッズや関連グッズ、その他刊行物などを販売する。</li> <li>観光客向の立ち寄りにも配慮し、入口からアクセスしやすい配置を検討する。</li> </ul>	
飲食・休憩スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡易的な飲食や休憩が可能な空間。</li> <li>団体バスなどの来場時に対応可能なように100名程度の席数を最低限確保する。</li> </ul>	
屋外テラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外で外の景観を楽しむことができるテラス。</li> <li>駿河湾や富士山を望むことができるような眺望を確保する。</li> </ul>	
キッズスペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児が自由に遊ぶことができる小さな遊び場として、玩具や図書など遊び道具が備えられている。</li> <li>基本的には無料で利用可能な空間とし、展示室のキッズ向け展示とは区別する。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>風除室、授乳室、ロッカーなど必要な空間を設ける。</li> </ul>	
<b>展示エリア</b>		
常設展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>駿河湾や地球とわたしたちのつながりを紹介し海洋・地球科学にふれる展示室。</li> <li>学校の社会科見学や遠足、クルーズ客などの団体来場にも対応できるように動線は広く確保し、ゆったりと展示を見られるスペースを確保する。</li> <li>特に水族展示にかかわる空間は休憩スペースや座って展示を見るスペースの確保に配慮する。</li> <li>基本的には入場料を徴収する空間とする。</li> </ul>	約3400㎡
企画展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋・地球にかかわるテーマについて期間を区切った企画展示を展開する。</li> <li>館でのオリジナル企画展や他館からの巡回企画展示を開催することを想定する。</li> <li>関連研究機関の研究発表や、イベントなどを通じて海洋産業の振興にも寄与することをめざす。</li> <li>常設展示とは別途入場料を徴収することも検討。</li> </ul>	
映像シアター	<ul style="list-style-type: none"> <li>100～200名程度が一度に体験可能な大空間での迫力ある映像を展開するシアターとする。</li> <li>着座型のシアターとし、上映時間を一定時間確保し入れ替え制での運用を検討する。</li> <li>海洋や深海をテーマとした映像を投影することを考慮し、高精細映像が投影可能な設備を設けると共に、複数壁面に対する映像投影など臨場感を演出できる設備の導入を検討する。</li> <li>常設展示とは別途入場料を徴収することを検討する。</li> <li>館で制作された映像の他に、一般の方等が制作した作品のプレゼンテーションやイベントへの貸し出しを可能とする柔軟な活用を検討することで、稼働率の向上をめざす。</li> </ul>	



## 展示を中心とした機能構成と諸室の必要面積

室名	機能概要	面積
<b>教育普及エリア</b>		
ライブラリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋や地球をテーマとした資料、書籍、映像を中心とした様々なメディアを閲覧可能な空間。</li> <li>・閲覧時には数時間程度は滞在可能なような空間や設備を設置することを検討する。</li> <li>・導入するメディアについては展示との連携を視野に入れることで相乗的な利用を促す。</li> </ul>	約500㎡
ワークショップルーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者向けに実験や工作などさまざまなワークショップの実施や、実験・実習型の講座などを開催することが可能な空間。</li> <li>・水や火を用いたプログラムなど、多様な活用が可能な設備を導入する。</li> <li>・複数の部屋を用意することで、多様な活用が可能なように配慮する。</li> </ul>	
<b>研究連携エリア</b>		
オープンラボ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示開発や生物の飼育研究のための空間。</li> <li>・研究者が常駐して日常的に研究を行うわけではなく、職員との共働によりイノベーションを促すための空間として活用するため、設備などについても配慮する。</li> <li>・共働の様子が来場者から見える、展示室から見えるなど、オープンな空間とする。</li> </ul>	約400㎡
プレゼンルーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携する研究者や団体と職員とのミーティングや、職員どうしの内部ミーティングにも活用可能なスペース。</li> <li>・複数の部屋を区切ってフレキシブルに使えるように配置などに配慮する。</li> </ul>	
<b>バックヤードエリア</b>		
予備水槽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バックヤードエリアについては、常設展示室と同等程度のスペースを確保し、将来的な設備変更や収蔵資料の増加についても対応可能な配置等を検討する。</li> <li>・予備水槽や水族飼育設備については、今後の設計において具体的な内容を決定していくこととするが、東海大学海洋科学博物館の設備との連携を検討する。</li> <li>・資料収蔵庫や展示準備室については、資料保護に適した一定の温湿度管理が可能な空間とする。</li> <li>・バックヤード動線については来場者動線と区別するよう適切に配置する。</li> </ul>	約3000㎡
水族飼育・治療室		
水槽維持装置		
資料収蔵庫		
展示準備室		
荷解室		
<b>事務管理機能</b>		
館長室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館長の執務室。</li> </ul>	約1000㎡
職員執務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤・非常勤職員の執務室。</li> <li>・諸室とのつながりや動線に配慮する。</li> </ul>	
コミュニケーター控室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示解説などを担うコミュニケーターの控室。</li> <li>・簡易的な作業や荷物置きが可能な設備を持つ。</li> </ul>	
警備員室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警備などセキュリティにかかわる室や救護室。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便所、更衣室、シャワー室、廊下、階段、エレベーターなど必要な空間を設ける。</li> </ul>	

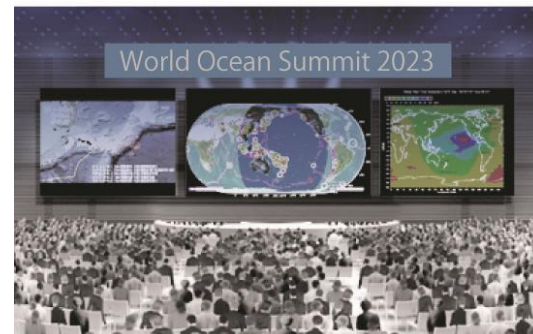
## 周辺環境を活かした施設展開イメージ



海に臨む公園としての再整備が期待される岸壁部のエリアなど、館から屋外へと広がる空間と連動し、市民の日常の憩いと来場者の交流を創出します。



館の屋上空間等を活用することで、清水から駿河湾と富士山を一度に眺望できる観光スポットとして展開するなど、本施設ならではの立地を活かします。



海洋・地球に関する国際的な学術会議等のイベントを実施する際にユニークベニューやパーティなどを開催可能な場や機能を設けます。



施設周辺の倉庫群をはじめとするエリアの再開発を促すことで、商業施設やファクトリー等に転用し、日の出地区全体での魅力・回遊性向上をめざします。



クルーズ船寄港時には市の取組みである「まちは劇場」をはじめとした音楽イベント等を実施することが可能なように、周辺敷地等と連携し展開します。

### (1) 周辺地区の再開発

#### 【広域での集客】

- ・日の出地区における賑わいを創出していくためには、**本施設以外の周辺地区の再開発**も欠かせない重要なファクターとなります。
- ・また、本施設には大型の飲食施設は見込まないため、日の出地区における観光客の滞在時間を延ばすためには、**特に飲食施設については周辺開発との調整が必要**であり、効果的な機能や配置の検討が期待がされます。

#### 【研究施設の誘致】

- ・現在の計画では本施設の核となる「学術コンテンツ」はJAMSTECや東海大学を中心とする連携先からの提供を前提としているが、今後、施設の魅力を更に向上していくために、ひいては清水が国際海洋文化都市をめざしていくにあたっては、**本施設に更に近い場所(日の出地区内)に研究施設を誘致することが望ましい**と考えられます。
- ・静岡市の参考とするモンレーベイ水族館でも、館の至近に研究施設を有し活動において連携をしており、このような構造を模索していくことが求められます。

### (2) 津波災害への対策と防潮堤等の活用

- ・静岡市総務局危機管理総室の定める「津波避難ビル」としての要件を満たすことをめざします。
- ・施設の東側に計画される防潮堤を前提として、**施設周辺からのアクセスや施設からの眺望等を検討することが求められます。**
- ・防潮堤の岸壁側には防潮機能を兼ねた緑地の整備が検討されているため、**施設と緑地のつながりを生む工夫も検討が必要です。**

### (3) 水族展示・飼育等にかかる海水の調達

- ・水族の展示や飼育にかかる水槽用の海水の調達について、今後詳細を検討していく必要があります。  
(2018年8月現在、建設候補地における地下海水の井戸での取水が可能かどうか、水質調査中)

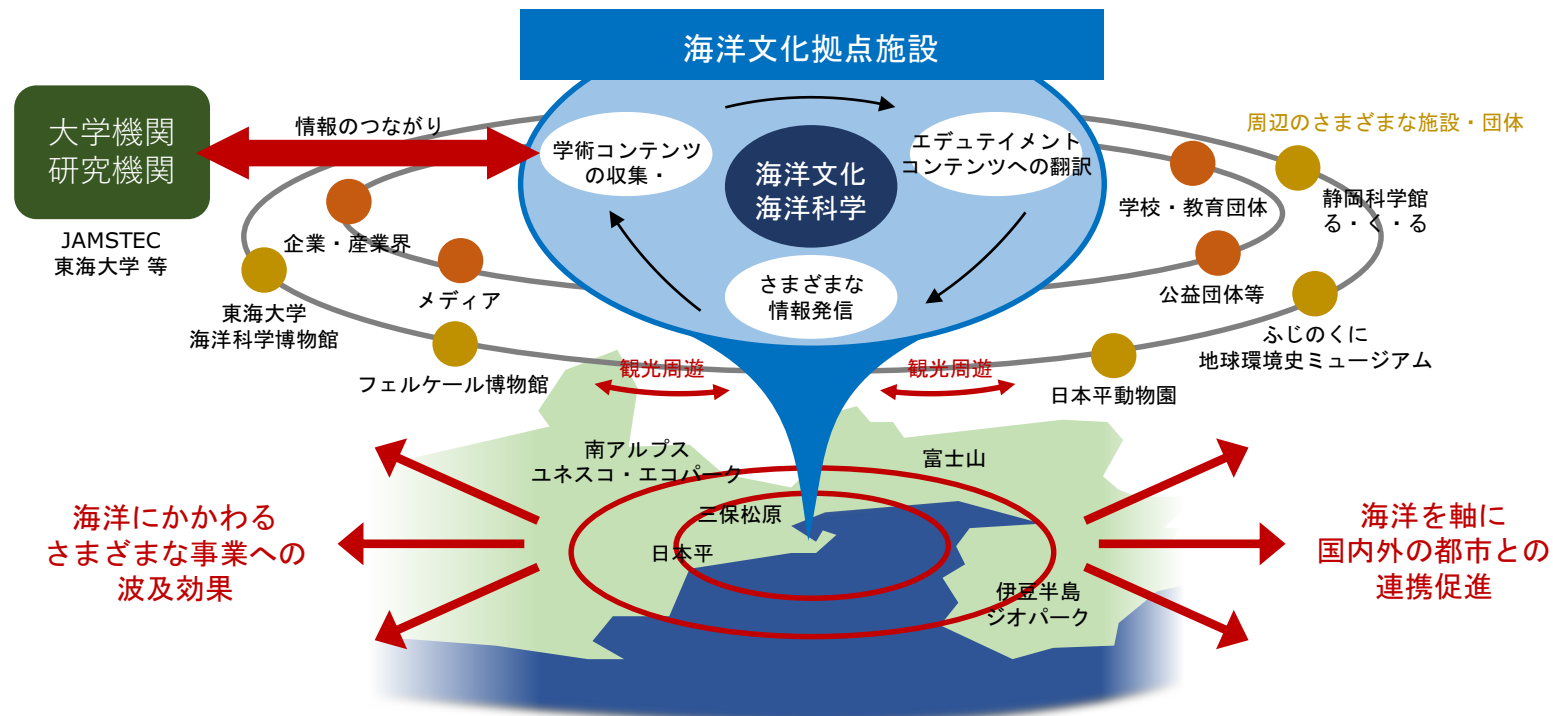
### (4) 来場者駐車場の確保

- ・参考施設等をもとに年間来場者数を60万人と設定すると、ピークである8月の休日には、約7,000人/日の来場者が想定されます。  
この場合、最も滞留者数の増える14:00頃に約400台の駐車スペースが必要と考えられます。
- ・今回の計画においては、限られた敷地における施設の魅力を高めるため、さらに**周辺施設間における回遊性を促進することや、地区内の車両交通動線などの最適化なども考慮し、来場者用の駐車場については、周辺敷地での民間開発の誘導も図りながら確保していきます。**
- ・施設現在日の出地区には、日の出パーキング(430台)、マリナーパーキング(570台)、エスパルスドリームプラザ(540台)といった大型駐車場が整備されているが、現在の利用状況を踏まえながら、**今後の周辺開発とも連携して適切な駐車台数を確保していきます。**

**持続的な事業としていくための運営にかかる計画**

## 多彩な海洋文化へとつながる運営を行うために多様な団体・施設とコラボレーションし 世界的な「海洋文化・海洋教育のメッカ」をめざします

- ・ コアコンテンツであるサイエンスを活かしながらも、サイエンスに限らない多彩な海洋文化の創造・発信
- ・ 分野に囚われずに多様な団体・施設・周辺環境とのコラボレーションを行う
- ・ 清水と海洋研究・教育の点で共通性がある世界の他都市（モンレーなど）とも交流を図る
- ・ 世界的な「海洋文化・海洋教育のメッカ」をめざし、「国際海洋文化都市・清水」に貢献する活動へ



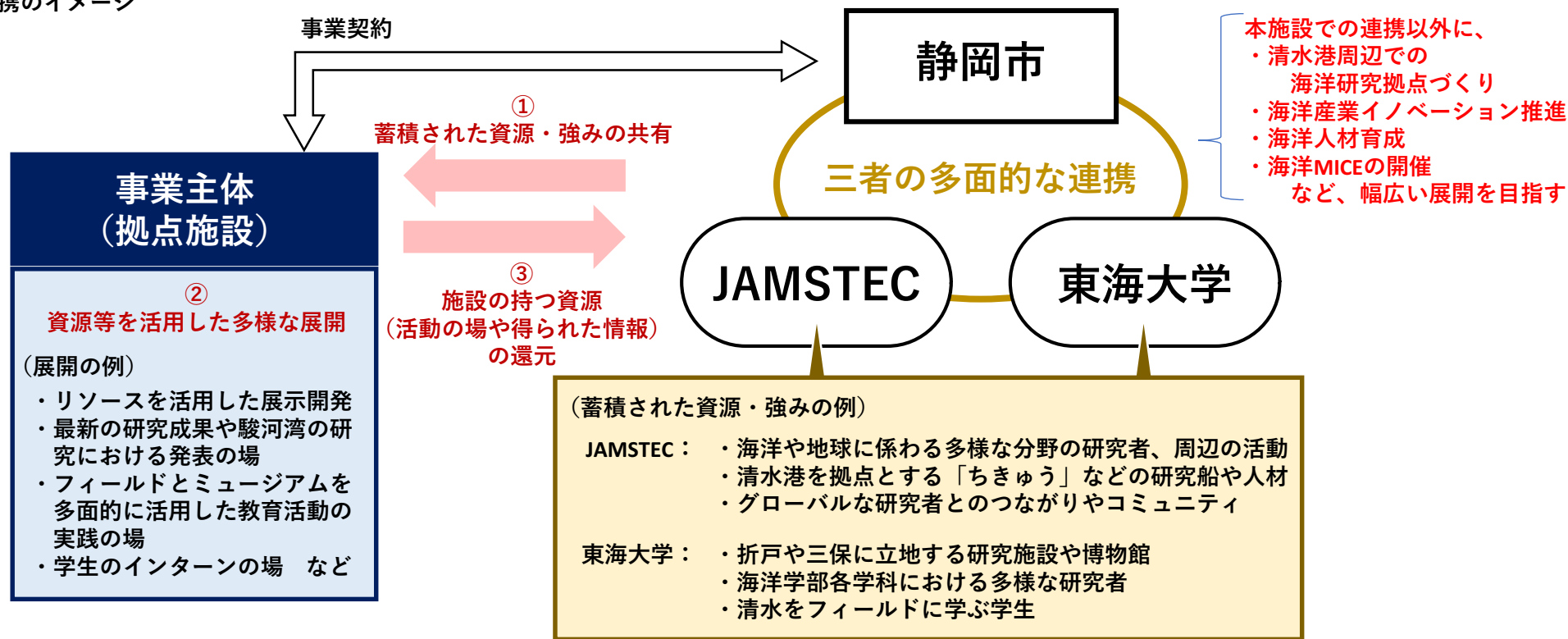
## 多様な団体・施設とのコラボレーションを通じて 清水地域や海洋分野を活性化する、幅広い展開をめざします

主な展開先	展開のポイント
研究機関	<b>本物のコンテンツ・研究者に触れ、海洋への意識を変える体験を提供</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際会議やM I C E と連動した取り組みを積極的に実施し、最先端の研究情報に触れられる場を提供</li> <li>研究者側に対しても、一般市民のニーズを発信する機会を創出</li> </ul>
大学機関	<b>次代を築く人材への、現場としての研究・活躍のフィールドを提供</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学の研究内容を施設の展示や教育普及活動を通じて実施、検証する場を提供</li> <li>学芸員の実習、飼育員養成など、海洋教育に携わる人材育成の場を用意</li> </ul>
小中学校	<b>若年層から海洋教育にふれる機会を創る、清水ならではのアプローチを実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>理科や社会科に限らない多様な科目との連携による、学校授業等での施設活用を促す展開</li> <li>教員や教育委員会へ、施設の効果的な利用方法を浸透させる活動を実施</li> </ul>
周辺文化施設	<b>施設のポテンシャルを最大限に発揮するイベントの共同開催等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>共同の企画や同一テーマでの連動した巡回展を実施し多様な学びを提供</li> <li>さまざまな施設間のつながりを積極的に構築し相乗効果を生み出す</li> </ul>
周辺観光施設	<b>面での賑わいを創出する、清水港観光クラスターの形成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各施設来場者の相互利用や未利用層の利用機会創出を促進</li> <li>清水港、日の出地区の周遊の拠点となり観光の中心拠点としての役割を構築</li> </ul>
産業団体	<b>産業界の活性化と交流のハブとなる施設運用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニークベニューなどの国際会議への参画機会やビジネスイベントの場を提供</li> <li>展示やイベントなどへの企業の参画を促し、P R の場を提供</li> </ul>
周辺環境	<b>本物のフィールドを実感させる体験が、海洋・地球の総合的理解を促進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>展示を入口に実際のフィールドへ促すことで、よりリアルな学びの機会を創出</li> <li>地域資源を感じさせる情報発信を積極的に行い、多様なフィールドへの回遊を促進</li> </ul>
市民活動	<b>市民の活動のベース基地としての側面が、地域とのつながりを育む場へ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設のテーマに則した団体の活動拠点、活動発表の場を提供</li> <li>地域イベントとの連携により、清水港全体の面での集客を支える展開</li> </ul>

清水にゆかりのある研究機関である東海大学・JAMSTECと静岡市の多面的な連携により  
それぞれが持つ資源・強みを活用しながら、効果的な展開をめざします

海洋科学・地球科学の分野において特に清水にゆかりのある東海大学、JAMSTECとは積極的な連携を図ります。  
両者が現在持つ多様なリソース（資源・情報など）を活用しながら、施設の活動を膨らませる展開をめざすと共に  
施設の持つ資源を還元することで、関係者に広くメリットのある相乗効果を生み出していきます。

■連携のイメージ

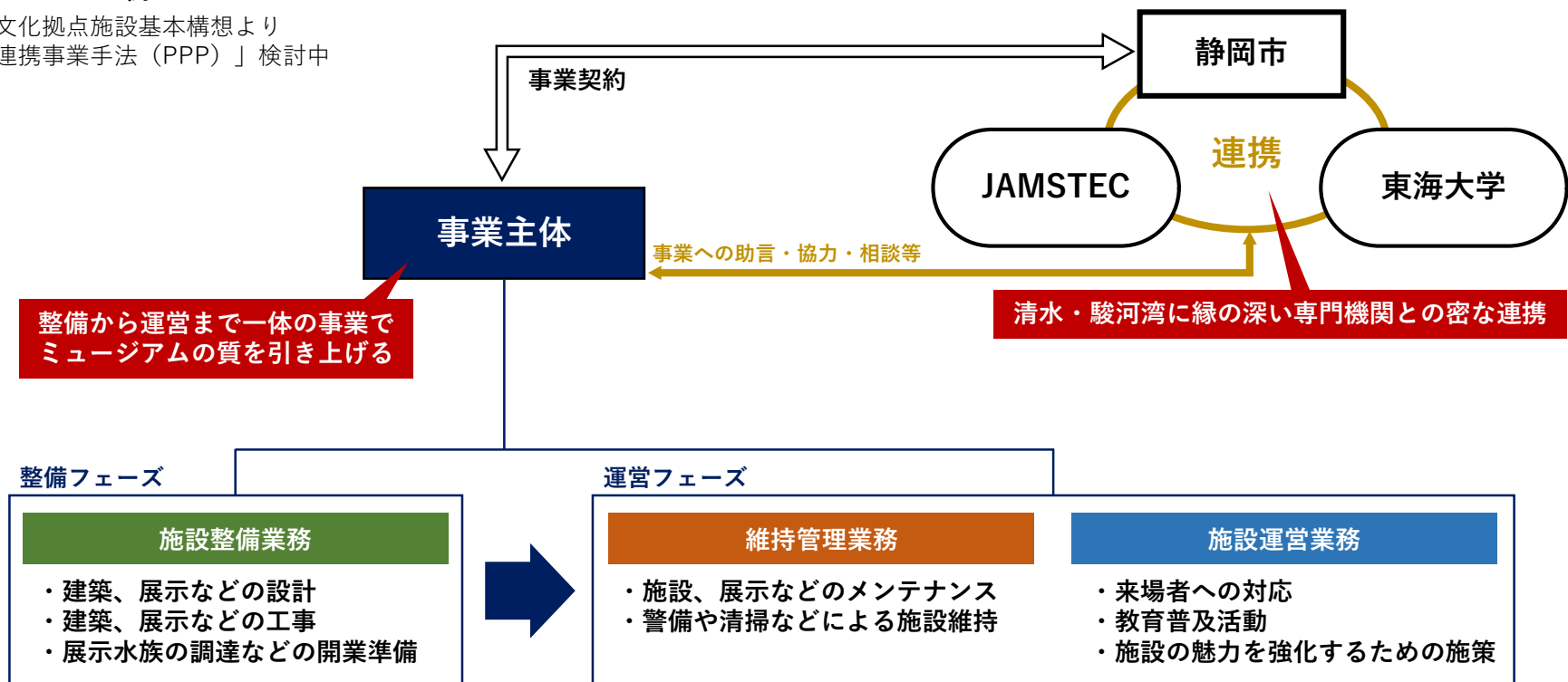


## 東海大学、JAMSTEC等の学術研究機関との連携により叡智を結集させると共に 運営を見据えた事業手法により、質の高いミュージアムをめざします

「海洋・地球に関する総合ミュージアム」を整備し運営していくにあたり、日本唯一の総合海洋学部を有する「東海大学」海洋科学技術の総合的な研究機関である「JAMSTEC」といった、学術研究機関の参画や協力が重要と捉えます。  
また、PPP等の事業手法により、運営を見据えた質の高い整備をめざします。

### ■事業スキームの例

※海洋文化拠点施設基本構想より  
「官民連携事業手法（PPP）」検討中

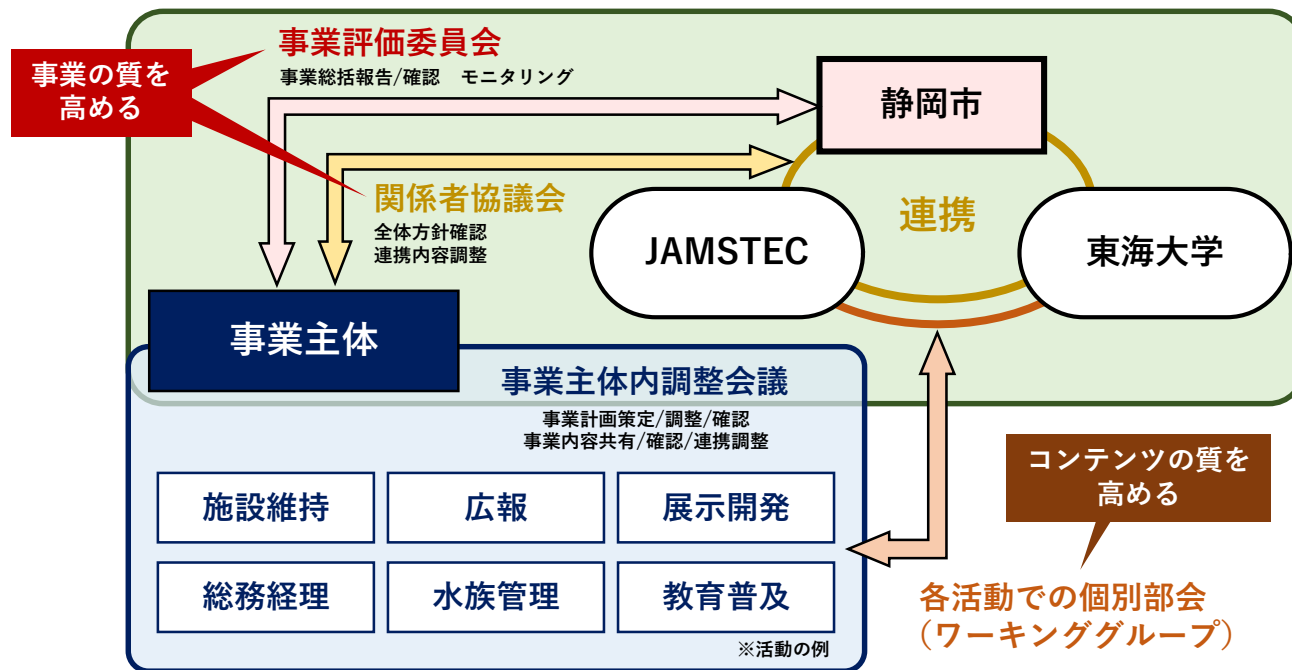




段階に応じた事業評価機能や専門性の高い会議体を設けることで  
事業主体による運営の質の向上を図ると共に、持続的な活動をめざしていきます

設置主体である静岡市を主体とした事業評価委員会によるモニタリング機能に加え、  
静岡市・JAMSTEC・東海大学の3者による包括連携を活かし、関係者協議会や各活動における  
ワーキンググループでの専門性の高い会議を設置することで運営の質を高めることをめざします。

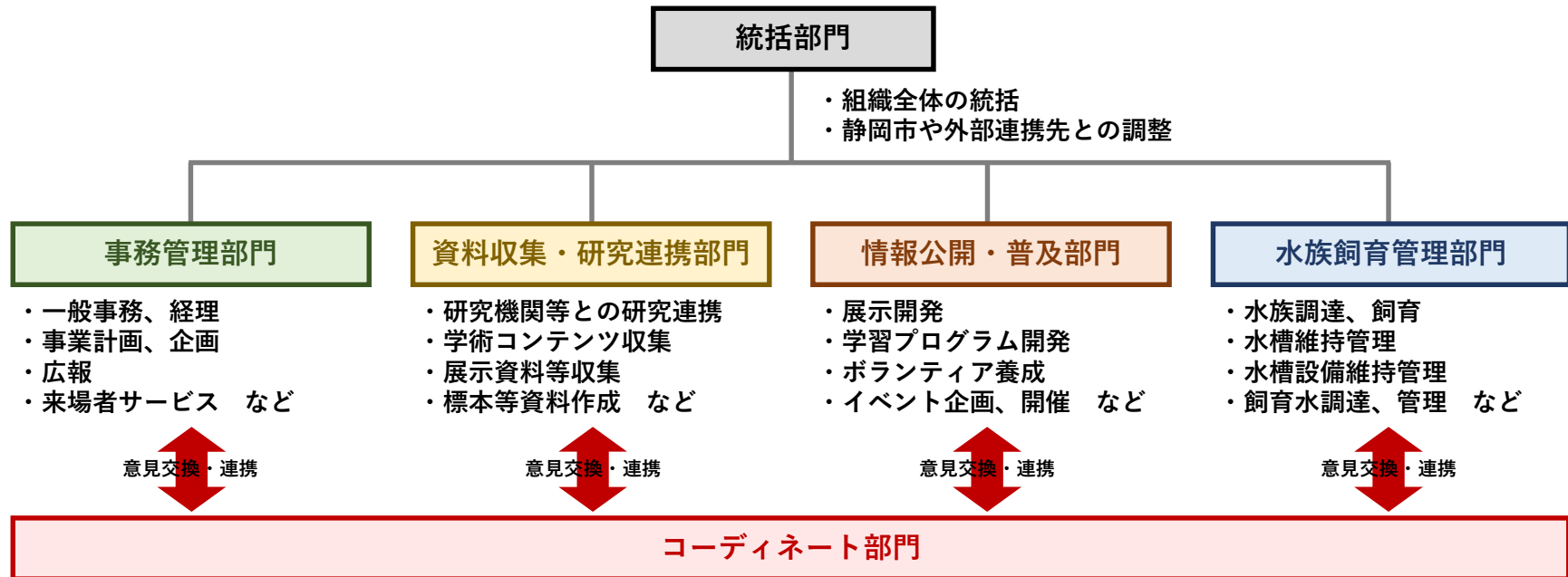
■事業評価・会議体スキームの例



部門にとらわれない組織横断的な役割のスタッフを配置することで  
「海洋・地球に関する総合ミュージアム」としての多彩な事業を創出します

組織における部門間のつながり、地域や利用者とのつながりを創るコーディネート組織を設け  
「海洋・地球に関する総合ミュージアム」「海洋文化・海洋教育のメッカ」をめざします。

■組織体制のイメージ



地域や関連施設等とのネットワーク構築を中心に、展示や教育普及などのコンテンツ調査を行うことで  
各部門とのハブとなり展示開発や教育普及活動、事業企画の核となる組織横断型の施設機能を担う

民間活力の導入を検討することで、施設・地域にもたらす効果が最大になると共に良質で持続的な施設運営が可能となる事業手法を選定します。

基本構想でも述べられているように、海洋文化拠点施設は、入館料等、受益者による一定の負担が想定され、類似施設（水族館等）では民営の事例も見られる「文化施設」であるという性格をふまえ、民間活力とも連携した様々な官民連携事業手法（PPP＝パブリック・プライベート・パートナーシップ）による実現が考えられます。今後の検討においては、施設・地域にもたらす効果を最大にし、持続的な施設運営が可能な事業手法を選択していきます。

### ■事業手法の選択における基本的な考え方

#### （１）基本計画の実現性

- ・本基本計画における、目的や役割、各活動における考え方を、民間事業者等の創意工夫によってより良い形で実現できること。

#### （２）事業継続性と公益性

- ・本事業が継続して実施される「事業継続性」及び、入館料をはじめとする、施設内外での多様な収入による、収益型事業を確保すること。
- ・施設活動を通じた海洋研究・教育との連携等の「公益性」を確保すること。
- ・「事業継続性」と「公益性」のバランスを調整し、官民双方にメリットがあること。  
※公益的なサービスで事業継続性を確保するなど、展開の工夫も検討する

#### （３）事業者の活動への自由度

- ・事業者が自らの創意工夫やノウハウを積極的・効果的に発揮しやすい環境を構築すること。
- ・事業者の発案が、迅速に現場での活動に展開可能な意思決定の環境を構築すること。
- ・ただし自由な環境においても、評価制度など監理可能なしくみを設け、良質で持続的な施設運営を確保すること。